



## 手洗いレース

先週から、放送で保健委員会が「手洗いレース」の参加を呼び掛けていました。私は低学年の部の日(26日(月))に見に行きましたが、児童昇降口には人だかりができていて、子供たちがそこで保健委員の子供の説明を聞いているのでした。保健委員会の子供が「このスタンプを掌に押します。そして30秒間洗って、よく落ちた人に景品をあげます。」と説明すると、参加している子供たちの目がキラリと輝きます。「よーい、スタート!」と手洗いレースがスタートすると、子供たちは石鹸を付けて懸命に手を洗い、掌のスタンプを消そうとしている姿がありました。



保健委員長の千原さんは、「自分が思ったよりもたくさんの方が参加してくれて、この『手洗いレース』をしてよかったです。手洗いの意識が高まると思います。景品も大人気でレースを頑張ってくれて嬉しかったです。」とイベントの感想を述べてくれました。ちなみに景品は保健委員会の子供たちが、折り紙でお菓子や手裏剣をつくってくれて、低学年から高学年まで大人気だったそうです。

このように帯西の委員会のイベントは、それぞれの委員が創意工夫しながら活動しています。各委員会の特色を生かした楽しくてアイデア溢れる活動が、ますます学校を「わくわく」する学校にしています。

## QRコードの秘密

今やすっかり馴染み深いものとなっているQRコードですが、実はこのQRコードは、日本の自動車部品大手メーカーのデンソーが開発したものです。なぜ、自動車部品の会社が開発したのかというと、そこには「情報量」というものが課題としてあったようです。約30年前まで、生産に必要な情報は、バーコードによって記録していました。しかし、生産の工程がより高度化し、複雑になる中で、コードに収める情報量を増やすことや、より小さいスペースで表示すること、コードを速く正確に読み取ることの必要性から、バーコードの限界を超える新しいコードを作ろうと開発されました。QRコードは、数字なら最大で7089桁、漢字だと最大で1817文字入り、これは400字詰め原稿用紙の4枚分以上となります。それは、QRコードがほぼ正方形となっていて、縦・横方向に情報が入ることで、多くの情報を持つことが可能となっています。



このQRコードは、コードの頂点のうち、3つに切り出しシンボルを配置してあり、どの角度からでも読み取りが可能となっていて、コードの中に「アライメントパターン」と呼ばれる小さな四角を配置することで、コードが歪んでも安定した読み取りが可能となっています。さらに、コードの中に特殊な符号「リードソロモン符号」をデータの領域に入れることで、データの一部が欠損してもコード自身でデータを復元する機能を持っているというから驚きです。

さて、このQRコードですが、特許は取得したものの、デンソーは使用料を取ってないということです。「世の中の役に立ちたい」というデンソーの思いからQRコードは、全世界に普及しています。